第二中

思考力・判断力・表現力を高める指導法の工夫

～特別支援教育の視点を生かして～　　（３年計画の２年次）

校長　　管　　宏

１　研究主題について

本校の生徒は、明るく優しく、人懐っこいという長所がある一方で、やや気持ちが弱く、自主・自立への意識が低いという課題がある。また、年々個別の支援を必要とする生徒が増えており、学力差が大きいという問題点がある。

そこで、本年度は本研究主題の２年次として、すべての生徒が分かる授業を目指して、授業のユニバーサルデザインを推進する。各教科・領域の特性を生かしながら、特別支援教育の視点を踏まえた「分かる」授業を実践することが、課題解決に向けて主体的に学ぼうとする生徒の意欲を生み、思考力・判断力・表現力の向上につながると考える。生徒一人一人の思考力・判断力・表現力を高めることで、自主・自立の意識の向上を目指したい。

２　研究のねらい

各教科・領域の特性を生かしながら、特別支援教育の視点を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることによって、主体的に学ぼうとする意欲が高まり、思考力・判断力・表現力の向上につながることを明らかにする。

３　研究仮説

本校は授業のユニバーサルデザイン化として、①見やすい板書・構造化された板書、②ねらいや授業の見通しの明確化、③目で見てわかる手がかりの活用、に重点をおき、全職員で共有し実践してきた。その取組を継続しながら、デジタル教科書・ICT 機器の活用や生徒自らが探究し、互いの考えを伝え合う活動等を取り入れることで、生徒一人一人の思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

４　研究内容

(1)「授業のユニバーサルデザイン」について研修し、具体的な取組について共通理解をする。

(2) ICT 機器の活用を通した授業実践と、互いの実践について学び合うための授業参観や研究協議を行う。

(3) 生徒理解や授業改善のために、外部講師（八戸学院大学短期大学部　教授　野口和也氏）をお招きし、研修する。

５　研究の経過

（1）研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要など
各学期		思考力、判断力、表現力を高める授業の実践 ユニバーサルデザインの授業実践
5	30	教育指導課・センター計画訪問
7	19	要請訪問　領域研究授業（特別活動）授業者　教諭　向井　勇樹 ３学年「これまでを振り返り、さらによい中学校生活の締めくくりにするための計画をしよう。」 助言者　八戸市総合教育センター　佐々木　亮子　主任指導主事
10	3	市中教研領域等研究協議会 集中授業（特別活動）　授業者　教諭　相馬　花純 ３学年「後期学級目標を達成するために ～全員で取り組む実践課題を決めよう～」 集中授業（キャリア教育）　授業者　教諭　藤田　翔平 ２学年「これからの時代に求められる力を伸ばすために、今の自分にできる目標を立てよう。」
10	12	初任者研修　教科研究授業（音楽）　授業者　教諭　伊藤　未祐 ２学年「みんなで創る混声合唱～合唱祭に向けて～」混声三部合唱「COSMOS」
11 月		授業参観週間
1	18	初任者研修　道徳研究授業　授業者　教諭　伊藤　未祐 ２学年　「自分らしさ」とは何だろう　〈内容項目〉A（３）向上心、個性の伸長

（2）一般研修

月	日	内容・講師・概要等
4	5	「思考力・判断力・表現力を高める指導法の工夫」の共通理解
8	18	一般研修（出前講座） 「中教研キャリア教育の集中授業についての進め方や指導案へのアドバイス」 講師　八戸市教育委員会　教育指導課　馬渡　正仁　主任指導主事 指導案作成者　教諭　藤田　翔平
9	22	心のケア研修支援事業 「通常学級における特別な支援が必要な生徒への対応の仕方 ～全体指導と個別支援～」 講師　立教大学　現代心理学部教授　大石　幸二　氏
12	7	ＪＳ推進事業　特別支援教育に係る校内研修会 「特別支援教育の視点での専門家によるスクリーニングと担当教員への指導・助言」 講師　八戸学院大学短期大学部　教授　野口　和也　氏

６　研究の成果

(1)　授業のユニバーサルデザイン

今年度は中教研の授業発表に向けて、全教員で指導案検討やプレ授業参観を行う機会を設定した。その中で、すべての生徒が議題を自分事として考える発問や板書の工夫について話し合うことができた。また、毎月の職員会議で、特別支援教育の視点での授業の仕方や生徒との関わり方について情報共有をすることができた。

(2)　ICT 機器を活用した授業実践と授業参観

すべての生徒が分かる授業を目指して、各教科で ICT の活用が行われている。また、１１月の授業参観週間や日々の教員同士の情報交換を通して、板書の工夫や見通しのもたせ方について良い実践例を共有することができた。

(3)　特別支援教育の視点を生かした生徒理解や授業改善

今年度は大石先生と野口先生にそれぞれ来校いただき、スクリーニングと助言・指導をいただいた。日頃教師が困り感をもつ生徒に対して、その要因や関わり方について的確にアドバイスをいただき、日々の授業改善や実践につなげることができた。

７　研究の課題

(1)　特別支援教育の視点を踏まえた授業実践と改善は日常的に行われている。しかし、学校評価アンケートを見ると、生徒の「主体的に学ぼうとする意欲」の項目が昨年度よりやや低下した。学習意欲を向上させ、思考力・判断力・表現力の育成につなげるためには、授業規律と学習習慣の確立も課題であることが見えてきた。

(2)　個々の生徒の、文字を書いたり文章をまとめたりする能力差を補うために、一人一台端末の活用は有効であり、教師側の授業改善の必要性を感じる。また、個別の支援が必要な生徒に対して、教員が個々の持ち味を生かしてチームで対応する体制づくりも考えていきたい。

（記入者　加藤彩子）